



建学の精神

学校教育においては、優れた知恵を磨く知育、丈夫な健康を育てる体育、ならびに立派な精神を培う徳育の三つ、つまり三育併進することが大切なことは言うまでもありません。しかし、それだけでは不十分で、折尾愛真学園はキリスト教による宗教教育による「人間の霊育」に重点を置いています。

立派な精神を持った人間であると同時に、社会に出て役に立つ人間であることを大切にしています。

折尾愛真学園の建学の理想の四つの柱

- ・キリスト教に基づく人格教育を行ないます。
- ・専門教科による職業教育を行ない、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行ないます。



清和学園 校章・マーク
外郭は日本古来の鏡の形を表わし、中央の百合の花は清純と信頼を表わしています。百合の花は、マタイによる福音書の6章28～29節の聖句から選ばれました。

学校法人 折尾愛真学園

〒807-0861 福岡県北九州市八幡西区堀川町12-10

TEL : 093-602-2100 FAX : 093-692-5690



創立

折尾愛真学園は、増田孝によって1935年(昭和10)折尾高等簿記学校として始まりました。

内村鑑三によってキリスト教(聖書)の教えに感化を受けた増田は、京都帝国大学(当時)卒業後、故郷の福岡県遠賀村に帰り、キリスト教に基づく精神教育と商業科を中心とした職業教育をする学校をつくろうと考えました。増田は教育を、「新しい人間をつくることであってその根本は人格教育に置かれねばならない」と考えました。折尾には、高等学校としては現在の東筑高校と遠賀高校があるだけでしたが、産業や工業地として発展の可能性を見てとり、この地を選びました。

開校当初は、理髪店の二階を仮校舎として借用しながら、認可を申請し、生徒募集を開始。友人の矢野光輝と増田の妹 勝代が協力を申し出て、増田が学科を教え、矢野は助手、勝代は助手兼事務員という体勢でのスタートでした。2年目に専有の校地と校舎を持つという条件で、県より認可を得て、15名の男女の生徒が入学したのです。開校に際しては父には迷惑をかけないように、彼自身が学業の支援を受けた小倉の松本はな夫人から、必要な資金を借用できることになりました。

次の年には生徒の数は50名を越え、校地としては折尾の個人の所有地を無償で借用、次年度には買収しました。それと同時に新校舎の建設も始まり、1936年(昭和11)には仮校舎から移転し、逐年生徒数も増加していきました。

1943年(昭和18)〈折尾商業女学校〉と改称し、修業年限を3年に延長します。さらに翌年(昭和19)11月には財団法人折尾女子商業学校として昇格し、修業年限を4年としました。

学校を女子学園とした理由について、女子は男子以上にこの世界に大きな影響を持つという意味で、増田は「ゆりかごを動かす手は世界を動かす」と語っています。

当時、日本のミッションスクールは、その多くが設立や発展において、何かしらの形で外国の援助を受けていましたが、増田は自主独立の精神を大切にし、日本人による日本のためのミッションを貫きました。

創立の背景と歴史

折尾愛真学園の創立者、増田孝は、1904年(明治37)福岡県遠賀郡に生を受けました。1925年(大正14)大分高等商業学校(現・大分大学経済学部)を卒業します。

当時はマルクス経済学者 河上肇を慕い、共産主義者となっていました。肺結核に冒されたときに、平安を求めて『資本論』を読んでも、そこには魂の慰めとなるものは見出すことができませんでした。そんなとき、内村鑑三の本を読んだことから聖書と出会い、洗礼を受けます。「マルクスからキリストへ。資本論から聖書へ」という人生の大転換を体験し、魂に平安が訪れるとともに、病も癒えていきました。

1929年(昭和4)京都帝国大学を卒業し、生涯の使命は自らの決断であってはならないと考え、「神のみ旨をなしてください」と祈りました。その結果、キリスト教教育者として学校を創設することにしたのです。

とはいえ、私学の事業は最も困難な事業の一つです。増田は、既設の学校に雇われて教職に奉仕することも考えましたが、それでは自分の教育理想を思う存分に実現していくことはできないと思いました。信仰とはどれほどの力であるか、神が助け、神がまさかのときに備えて道を切り開いてくださることに挑戦してみたい、というのが、私学創設の根本にあった増田の精神でした。

先祖代々浄土宗の仏教徒であった増田家からクリスチャンが出たことに、父 幸蔵は困惑しました。学校設立にも反対しましたが、増田の決意があまりに堅いことを知り協力者となってくれました。同じように反対していた叔父の小川登一郎も、のちには理解者となり、小学校校長の立場から協力してくれました。増田が信じたように、さまざまな困難には助け舟があらわれ、1935年(昭和10)〈折尾高等簿記学校〉が創立されました。

増田に続いて母が、また75歳の祖母が、最後には父までもがキリスト教に改宗しました。また、妹の勝代は良き協力者となり、学園を支えました。

増田の子息 祈は著書『父母を語る』の中で、「私はいつも思う、父に接するたびに、『真の教育者、ここにあり』と。この世に向かって大声で、誇らしく叫びたい。教育者は、自ら神の前で教育されるものでなければならない。父はいつも神の存在に畏れつつ、祈りつつ、教育に向かう。神への信仰こそが、父の教育原理である。(中略)

父はまた大変な人間通である。教育者には欠くことのできない要素である。一人ひとりをこの上もなく大事にする。私によく話してくれた『生徒を叱るときは、その人だけにして叱れ。誉めるときは皆の前で誉めよ。』

1947年(昭和22)新学制により折尾女子中学校を設置、さらに翌年には折尾女子商業高等学校を設立し、中高一貫教育を目指します。1955年(昭和30)には愛真幼稚園を、1966年(昭和41)折尾女子経済短期大学を設置するなど、総合学園として発展を遂げています。

平成となって時代は変わり、女子教育を掲げていた学園も男子学生を受け入れ、(折尾学園中学校)・〈折尾学園高等学校〉・〈折尾愛真短期大学〉に校名変更し、現在では男女共学校となっています。



創立者 Annie Dowd (1861～1960年)
教育者であり、事業家であり、
そして何より優れた伝道者でした。

